



AIGは、重点領域を明確にした、よりむだのない、より収益性の高い保険会社となるための戦略を発表

- 2年以内に少なくとも250億ドルの株主への資本の還元を実施
- ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーションについて、完全な分離化への第一歩として、発行済株式の最大19.9%を新規株式公開(IPO)
- AIG アドバイザー・グループの売却を含む切り離しおよび終了を通して事業の簡素化を実施
経時的に業績改善および戦略的な柔軟性の実現をもたらす、透明性および説明責任を向上させるために、複数の事業部門で構成される事業モデルに組織を再編
- 事業部門のポートフォリオにおける高い透明性を確保し、ROE の改善を明確に示すために、レガシーアセットを分離
- 2年以内に16億ドルの経費削減を実施
- 2017年までにコマーシャル部門の損害保険における事故年度ロスレシオを6ポイント改善
- 2017年までに連結ベースで自己資本利益率(ROE)最大9%、事業部門のポートフォリオではROE10%以上を実現

2016年1月26日（ニューヨーク発）：アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄：AIG）（「AIG」）は本日、よりむだのない、より収益性の高い、重点領域を明確にした保険会社となるための戦略的な取組み、組織再編および経営改善について一連の発表を行いました。

AIG 取締役会は、繰延税金資産（DTA）の回収可能性にかかわらず、買い戻しや配当によって2年以内に少なくとも250億ドルの資本の株主還元を実施することを示しました。また、完全な分離化への第一歩としてユナイテッド・ギャランティ・コーポレーションにおける発行済株式の最大19.9%の新規株式公開（IPO）およびAIG アドバイザー・グループのライトイヤー・キャピタル LLC および PSP インベストメントへの売却を承認しました。

更に、取締役会は、より徹底した説明責任を満し各事業部門個別のファイナンシャル・メトリクスを維持する9つの「モジュール型」事業部門への組織再編を含む、様々な組織変更について承認しました。AIG が新たに構築する、非戦略的なレガシーアセットの「レガシー」ポートフォリオの統括にあたるレガシー部門の CEO にはチャーリー・シャミア氏が任命されました。

AIG は、関連する戦略として、2015年の一般営業費（GOE）の14%である16億ドルの2年以内の削減、2017年までのコマーシャル部門の損害保険における事故年度ロスレシオの6ポイント改善、事業部門のポートフォリオにおける10.3%から10.7%の実現を反映した連結ベースでのROE最大9%の実現を発表しました。

AIG 社長兼 CEO のピーター・ハンコックは、「この戦略は、AIG が組織の簡素化を行い、よりむだのない、より収益性の高い保険会社になり、引き続き株主還元を実施する中で株主利益率を改善していく上で大きな一歩です。また、AIG グループ内での成長かないしはスピンオフもしくは売却を行うことのできる、より機敏かつ独立した複数の事業部門を有する体制は、株主の最大の利益につながる選択を可能にします。」と述べました。

AIG 非常勤会長ダグラス・M・スティーランドは、「取締役会は、ピーター・ハンコックおよびマネジメントチームが提出した戦略を全面的に支持しています。今後数年間で株主価値の向上につながるより多くの選択肢がもたらされ、優れた業績をあげることにつながる取組みであるとの認識で一致しています。AIG は、250億ドルの株主還元を実現することにより株主に応えること、お客様に対し

リスクに関するノウハウを提供し、信頼にたる長期的なバランスシートを実現すること、規制当局の求める要件を名実ともに確実に実現するカルチャーを保持すること、世界最高レベルの社員を引きつける環境を維持することに注力しています。

AIG は、慎重な検討の結果、短期的な完全分社化は、株主利益を向上するのではなく損なうという結論に達しました。多様性による恩恵を失うことにより配分可能な資本が減少し、税制面でのメリットが損なわれます。ノンバンクのシステム上重要な金融機関（SIFI）であることは 資本の還元を制約するものではありません。」と述べました。

戦略的取組み

資本の還元

AIG は、2015 年の 120 億ドルに加えて、2 年以内に買い戻しや配当により少なくとも 250 億ドルの資本の株主還元を実施することを約束します。投資利益の向上は、業績の向上、資産売却、再保険取引、資産配分の変更、小幅なレバレッジの向上、収益の低いレガシーアセットから経時的に行う資本金の引き上げを組み合わせて実施することによって実現すると予想されます。言明された 250 億ドルの株主還元は、本日発表した支払備金の増強および付随する資本拠出を実行した上でも実現可能です。

ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) における最大 19.9% の IPO

AIG はユナイテッド・ギャランティ・コーポレーションの完全な分離化への第一歩として、規制当局および政府支援機関（GSE）の承認を前提に、2016 年半ば同社の新規株式公開（IPO）を実施し、発行済株式の最大 19.9% を売却します。

AIG アドバイザー・グループの売却

AIG は AIG アドバイザー・グループを金融サービス投資に特化したニューヨークの非公開投資会社であるライトイヤー・キャピタル LLC およびカナダ最大の年金投資マネージャーである PSP インベストメントに売却することを発表しました。本取引は、2016 年第 2 四半期に完了する予定です。

組織再編

「モジュール型」事業部門

AIG は組織全体における透明性の向上、説明責任の明確化、業績の拡大を実現するため、事業モデルの徹底的な見直しを行っています。AIG のコマース部門およびコンシューマー部門においてまず 9 つの「モジュール型」事業部門が設けられます。この新体制により意思決定権を分散させ、各部門のリーダーの説明責任を拡大し、より可変的なコスト構造へ移行することが可能になります。この組織再編により、AIG 内で事業部門の維持・成長を目指すか、あるいは財務目標に十分に貢献していない場合や、AIG から切り離すことで価値が高まる場合が明らかな場合、もしくはそれが株主還元のための効率的な方法であると判断した場合に、株式公開もしくは売却するという選択が可能になります。

クレジット・リスク・プロファイルおよび業績の改善を前提とした繰越税金資産（DTA）の回収を実施し、経時的にコマース部門およびコンシューマー部門において更に規模の大きいモジュール事業部門の切り離しを検討することが可能になります。AIG のコマース部門におけるモジュール型事業部門は、ライアビリティ・アンド・ファイナンシャル・ライン、プロパティ・アンド・スペシャルリスク、US コマースおよびヨーロッパ・コマースです。コンシューマー部門におけるモジュール型事業部門は、US インディビジュアル・リタイアメント、US グループ・リタイアメント、ライフ・ヘルス・アンド・ディサビリティ、パーソナル・インシュアランス（P&C）および日本です。

新たな「レガシー」ポートフォリオマネジメント

新たな「レガシー」ポートフォリオには、非戦略的資産および撤退やランオフを計画している事業が含まれ、株主還元のため、適時に資産の収益化を実現するためのポートフォリオマネジメントを行い

ます。また、2016年後半に財務リターンを実現するための要素を明確にし、2017年までに90億ドルの資本の切り離しを実施する目標への焦点をよりはっきりさせるため、新たに開示を実施する予定です。

経営改善

経費削減

AIGは、2015年の一般営業費（GOE）の14%である16億ドルを2年以内に削減するという大規模な経費削減に取り組みます。事業活動の集約およびレイヤーの削減、シェアード・サービスおよびアウトソーシングの活用、低コストでのオペレーションが可能な地域への移転、自動化の更なる推進を含め、現在取り組むグローバルな体制の合理化を加速させることにより、むだのない経営を実現します。

保険引受における改善

コマーシャル部門の損害保険における事故年度ロスレシオの改善のために、1~2種類の商品のみでの購入にとどまっている利益率の低い顧客層についての対処、再保険の拡大および最適化、業績が芳しくないポートフォリオにおける特定のセグメントからの撤退もしくは修正を実施し、積極的な取組みを推進します。これにより、2017年までに事故年度ロスレシオの6ポイント改善を目指しています。加えて、コンシューマー部門において、パーソナル・インシュアランスの事業地域の絞込み、米国の生命保険ビジネスにおける非効率的なセグメントを対象とした再保険の活用拡大、日本事業への投資からの利益の最大化、米国におけるリタイアメントビジネスの成長等、重点領域の集中化を進め、収益性向上につながる取組みを実施していきます。

自己資本利益率（ROE）改善

AIGは2017年までに、事業部門のポートフォリオにおける10.3%から10.7%を反映した連結ベースでのROE最大9%を目指します。今回の戦略で示されている経営改善、資本に関する取組み、収益性を伴う成長を通してROEの向上を実現します。同時に、レガシーアセットや負債についても、収益性の低い資本を経時的に切り離す予定です。

社長兼CEOのピーター・ハンコックは、「AIGは相当規模の財務目標を設定しました。私たちは、1株当たりブック・バリューの向上とROE改善のトレードオフを慎重に考慮し、引き続き株主利益率の向上に努めます。会社の体制を徹底的に見直し、モジュール型の自立した事業部門に再編することにより、実質的な業績拡大および株主価値の最大化を実現させます。」と述べました。

AIGは、2016年1月26日午前8時（米東部時間）より、本戦略のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションに関する資料については、AIGのウェブサイト（<http://www.aig.com>）のインベスター・セクションを参照ください。また、このプレゼンテーションは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）をリアルタイムで聞くことができます。終了後まもなく再生も可能となります。

社長兼CEOのピーター・ハンコックのインタビューやその他の重要な関連情報については、AIGのウェブサイト（<http://www.aig.com/strategy-update>）を参照ください。

将来予測情報およびその他の事項に関する注意事項

本プレスリリースには、米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積も

る」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な訴訟、銀行以外のシステム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、予想される改革に関する費用および予想される経費削減に関する判断、年末の監査プロセスの完了ならびに2015年9月30日に終了した四半期に関するフォーム10-QによるAIG四半期報告書パートI項目2「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」とパートII項目1A (「リスク要因」)、2015年6月30日に終了した四半期に関するフォーム10-QによるAIG四半期報告書パートI項目2「(MD&A)」、2015年3月31日に終了した四半期に関するフォーム10-QによるAIG四半期報告書パートI項目2「(MD&A)」および2015年12月31日に終了した年度に関するフォーム10-KによるAIG年次報告書パートI項目1A (「リスク要因」)とパートII項目7「(MD&A)」でとりあげられている事項などがあります。

AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。本プレスリリースには、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。本プレスリリースの付録には、それらの数値を規定 G に基づく最も比較可能な GAAP 財務数値との調整を行ったものが含まれています。本プレスリリースおよび関連する口頭での発表は、株式売却のオファーもしくはあらゆる地域におけるあらゆる株式の購入に関する提案を示唆するものではなく、示唆するとみなされるべきではありません。

規定 G に関する注釈財務

ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、当社の業績を最も良く表すと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非 GAAP 型の財務数値」が用いられています。GAAP とは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIG が表示する非 GAAP 型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本プレスリリースの付録には、それらの数値を規定 G に基づく最も比較可能な GAAP 財務数値との調整を行ったものが含まれています。

その他の包括利益 (損失) 累計額 (AOCI) を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー、および AOCI ならびに DTA (繰延税金資産) を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AIG の 1 株当たりの純資産額を示すために用いられています。これらの指標は、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整、および繰延税金資産に帰する米国税金など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益だと考えます。繰越税金資産は、正味営業損失繰越額および外国税額控除に関する米国の租税特性を示しています。合計額は、通年の属性利用の予測に基づいて試算されています。AOCI ならびに DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AOCI ならびに DTA を除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

自己資本利益率 - AOCI ならびに自己資本利益率を除く税引き後営業利益 - AOCI ならびに DTA を除く税引き後営業利益は、株主資本利益率を表すために使用されています。これらの指標は、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整、および繰延税金資産に帰する米国税金など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益だと考えます。繰越税金資産は、正味営業損失繰越額および外国税額控除に関する米国の租税特性を示しています。合計額は、通年の属性利用の予測に基づいて試算されています。自己資本利益率 - AOCI を除く税引き後営業利益は、AIG に帰属する実際または年間の税引き後営業利益を平均 AOCI を除く AIG 平均株主資本で除したものです。自己資本利益率 - AOCI ならびに DTA を除く税引き後営業利益は、AIG に帰属する実際または年間の税引き後営業利益を平均 AOCI ならびに DTA を除く AIG 平均株主資本で除したものです。

AOCI ならびに DTA を除く正規化 ROE は、一定の変動または市場に関連する事項の影響を受けて、

株主資本利益率 - AOCI ならびに DTA を除く税引き後営業利益に調整を与えています。AOCI ならびに DTA を除く正規化 ROE は、株主資本利益率 - AOCI ならびに DTA を除く税引き後営業利益から、異常災害損失の予測との差異、オルタナティブ投資利益の予測との差異、DIB/GCM 利益の予測との差異、PICC 投資の公正価値、保険数理上の仮定の見直し、現在価値割引後正味準備金計上額、生命保険 IBNR 死亡保険金および前年度損失引当金の増加といった税務調整要素を除外したものです。

AOCI ならびに DTA を除く正規化 ROE — 営業、レガシー・ポートフォリオは、AOCI および DTA を除く株主資本利益率-税引き後営業利益を法人 GOE の営業費用、親会社の金融債務および関連の支払利息についてさらに調整するものです。

AIG は、継続事業の基本的な収益性と、AIG の事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。AIG がこれらの指標を使用する場合、GAAP に準拠した最も比較可能な指標との調整が連結ベースで表示されています。

AIG に帰属する税引き後営業利益は、AIG に帰属する純利益から以下の項目を除きます。非継続事業の損益、売却事業の損益 (International Lease Finance Corporation (ILFC) 売却益、ならびに ILFC 取得に伴い AerCap Holdings N.V. (AerCap) が負担する特定の取得後取引費用、関連する航空機の残存リース期間と残存経済的耐用期間における AerCap の維持権資産費用計上の差異、および関連する税効果の差異を含む)、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税務調整、営業外の訴訟損失引当金と和解金、営業外ランオフ保険事業に関連する支払備金、営業費削減・効率化・組織の簡素化を目的とする取り組みに関連する再編およびその他費用、繰延税金評価引当金の戻入れと繰入れ、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値変動 (支払利息を除く)、給付積立金の変動、ならびに正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロスに関連する繰延保険獲得費用 (DAC)、獲得事業価値 (VOBA)、販売促進資産 (SIA) の変動、その他投資活動等に属するランオフ事業の保険種目に関連するその他の利益と費用-純額、債務消滅損、正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロス、ならびに正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引。

経常収益は、正味実現資本益 (損)、航空機リース収益、GAAP ベースではその他収入に含まれる営業外の訴訟和解金および GAAP ベースでは正味投資収入に含まれる支払利息を除く生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値変動を除外したものです。

一般営業費、営業ベースは、事業費とその他費用に対し、(i) 損害調整費用 (負担した保険契約者給付と損害) および (ii) 正味投資利益として計上される一部の投資およびその他の費用を加え、(i) 支払い顧問料、(ii) 繰延できない保険委託料、(iii) ダイレクト・マーケティングと獲得費用 (繰延分控除後)、(iv) 営業外の訴訟損失引当金、および (v) 遡及型再保険契約に関するその他の費用を除外したものです。AIG は、通常の事業費を表すために最も意味がある指標だと考え、一般営業費、営業ベースを用いています。

AIG は、報告セグメントのコマーシャル・インシュアランスとコンシューマー・インシュアランス、ならびにその他投資活動等で、以下のような業績指標を使用しています。

コマーシャル・インシュアランスの企業向け損害保険およびモーゲージ保証保険、コンシューマー・インシュアランスの個人向け損害保険

税引き前営業利益：事業損益と正味投資利益の双方が含まれますが、正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロス、その他の利益および費用-純額、ならびに営業外の訴訟損失引当金と和解金は含まれません。事業損益は、正味既経過保険料から、発生した損害および損害調査費、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

比率：AIG は、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料 100 ドルに対する損害および損害調査費と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが

100 を下回る場合は事業利益、100 を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率に影響を及ぼすだけでなく、事業利益および関連比率に反映されているように、ひいては収益性にも影響を及ぼします。保険事故年度の調整済み損害率および調整済みコンバインド・レシオ：双方とも、異常災害損失、関連する復活保険料、期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）（保険料調整額考慮後）、準備金の割引による影響を除外したものです。異常災害損失は通常天候や地震に関する出来事、正味の影響がそれぞれ1,000 万ドルを超えるものです。

コマーシャル・インシュアランスの機関投資家向け市場、コンシューマー・インシュアランスのリタイアメントおよび 生命保険

税引き前営業利益は、税引き前利益から次の項目を除外したものです。営業外の訴訟損失引当金と和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値変動（支払利息を除く）、正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロス、給付積立金の変動、正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロスに関連する DAC、VOBA、SIA の変動。

収入保険料および預かり資産には、従来型生命保険契約、団体給付契約、生存依存型年金での直接の受取額および想定される受取額、ならびにユニバーサル生命保険、投資型年金契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他投資活動等

税引き前営業損益は、税引き前損益から次の項目を除外したものです。営業外の訴訟損失引当金と和解金、営業外のランオフ保険事業に関連する支払備金、債務消滅損、正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロス、給付積立金の変動ならびに正味実現キャピタル・ゲインおよびキャピタル・ロスに関連する DAC、VOBA、SIA の変動、航空機リースなどの売却事業の損益、売却事業の純売却損益（ILFC 売却益、ならびに ILFC 取得に伴い AerCap が負担する特定の取得後取引費用、関連する航空機の残存リース期間と残存経済的耐用期間における AerCap の維持権資産費用計上の差異、および AerCap の所得税の当社負担分を含む）、および営業費削減・効率化・組織の簡素化を目的とする取り組みに関連する再編およびその他費用。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

###

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、100 以上の国と地域で顧客にサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供しています。この他、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開しています。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場しています。

AIG Inc. の追加情報については www.aig.com | You Tube : www.youtube.com/aig | Twitter : @AIGLatestNews | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> | を参照ください。

AIG とは、AIG Inc. 傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名です。より詳細な情報については当社のホームページ（www.aig.com）を参照ください。全ての商品およびサービスは AIG Inc. 傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されています。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠します。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがあります。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性があります。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われません。

アメリカン・インターナショナル・グループ
GAAP に準拠していない項目の調整

AOCI および DTA を除く AIG 株主資本の調整 (単位：10 億ドル) 2015 年 9 月 30 日現在	生命保険会 社	損害保険会 社	生命保険会 社および損 害保険会社	その他投資活 動等	AIG
AOCI および DTA を除く AIG 株主資本合計 除くその他の包括利益累 計額 (AOCI)	\$35.3 (4.4)	\$48.8 (2.3)	\$84.1 (6.7)	\$14.9 0.2	\$99.0 (6.6)
AOCI を除く AIG 株主資 本合計 除く繰延税金資産 (DTA)	30.9 0.0	46.5 0.0	77.4 0.0	15.1 (15.3)	92.4 (15.3)
AOCI および DTA を除く AIG 株主資本合計	\$30.9	\$46.5	\$77.4	(\$0.2)	\$77.2

営業ポートフォリオおよびレガシー・ポートフォリ オとの調整 AOCI および DTA を除く株主資本	営業ポートフ ォリオ	レガシー・ポ ートフォリオ	AIG
AOCI および DTA を除く AIG 株主資本合計 レガシー・ポートフォリオの持分移転 親会社債務の縮減	\$77.4 (6.2) (15.6)	(\$0.2) 6.2 15.6	\$77.2 0.0 0.0
AOCI および DTA を除く AIG 株主資本合計	\$55.6	\$21.5	\$77.2

- (1) 廃止またはランオフ事業（主として Eaglestone および生命保険のランオフ・ポートフォリオ）およびレガシー・ポートフォリオに関連しての株主資本の移転および 2002 年より前のストラクチャード・セツルメントに対応します。
- (2) 親会社の金融債務の一部の移し入れによる非生命保険 20%、生命保険 25%のレバレッジによる金融債務の営業ポートフォリオへの割り当て（金融債務 + ハイブリッド債務 / 総資本として計算）に対応します。
- (3) 正味営業損失繰越額および外国税額控除に関連する米国の租税特性に対応します。額は、年度初めから年度末までの特性利用についての想定に基づく推計である。

(単位：10 億ドル)	2014	2015
事業費合計、オペレーティング・ベース	\$ 11.9	\$ 11.2
損害調整費用（負担した保険契約者給付と損害）	(1.7)	(1.6)
支払い顧問料	1.3	1.3
繰延できない保険委託料	0.5	0.5
ダイレクト・マーケティングと獲得費用（繰延分控除後）	0.6	0.7
正味投資利益として計上される投資費用	(0.1)	(0.1)
税引き前営業利益に含まれる事業費用とその他費用の合計	12.6	12.0
再編その他費用	-	0.5
遡及的再保険契約に関連するその他の費用	-	0.2
営業外の訴訟損失引当金	0.5	0.0
事業費用とその他費用の合計 (GAAP ベース)	\$ 13.1	\$ 12.8